財団法人 中東調査会
The Middle East Research Institute of Japan
المعهد الياباني لبحوث الشرق الأوسط

かわら版

2007年8月24日
No.199

―東地中海地域ニュース―

シリア・イラク：イラク首相のシリア訪問　（8月20-22日付シリア各紙）

8月20日、イラクのマーリキー首相を団長とする使節団が3日間の予定でシリアを訪問、20日オトリー首相及びムアッリム外相と会談、21日バッシャール大統領と会談した。又、両国の内相、石油相、灌漑相、水資源相同士の会談も行われた。

1．　首相会談
あらゆる分野における両国関係活性化の方策、シリア滞在のイラク難民の状況、同難民流入によりシリアが抱えた社会的、経済的負担、当該問題関して両国が共同で取り組む必要性について協議した。

2．　オトリー首相発言
(1) シリアは戦争により破壊されたイラクの再建に効果的にコミットし、同国民を支援する用意がある。シリアはこれまでイラクの国民和解、安全、安定の実現に最善を尽くしてきた。シリア国内にイラク難民約150万人が流入し、社会的、経済的負担を負っている。
(2) イラク占領軍はイラクの社会、経済、治安面の状況悪化の責任を負っている。占領軍の存在が過激派を引き寄せ、日々無辜の市民が犠牲となっている盲目的な暴力を助長している。占領軍撤退のタイムテーブルの策定は、イラク諸派間の和解、真剣な国民対話に向けた適切な環境醸成に資することになるだろう。
(3) 今回のマーリキー首相使節団の訪問は、両国の今後に新たな展望を開くだろう。両国はこれまで締結された協定の活性化に加えて、経済、貿易、運輸、エネルギー、農業、工業、水資源管理の分野で新たな協定の締結を強く望んでいる。

3．　マーリキー首相発言
(1) イラク・シリア関係は、同胞的且つ歴史的であり、イラクは経済、社会分野における両国関係の強化にコミットしている。
(2) イラクは、イラクの安全と安定を実現し、イラク国民が直面している現状の克服のため、近隣諸国との協力を重要とみなしている。両国の共同技術委員会を通じて、両国間で締結された協定を検討する必要がある。

4．　バッシャール大統領との会談
(1) 両国関係発展の方策、治安協力の活性化、経済関係の強化について協議した。
(2) バッシャール大統領は、イラクの現行の政治プロセスを支持、市民を目標としたテロを非難、イラクの国民的和解、イラク統一・独立の保障、アラブ・イスラム・アイディンティティーの強化に向けた環境醸成の必要性を強調した。
(3) マーリキー首相は、バッシャール大統領がイラクの立場と安定・安全の実現にコミットしていることに安堵の意を表明した。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。
ご質問・お問合せ先　財団法人中東調査会　TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799